

日九廿月三

常磐每日新聞

定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告費 第一版 每行一元 第二版 每行五角
 電話 編輯部 電話六〇〇〇 印刷部 電話六〇〇〇
 發行所 常磐每日新聞社 常磐毎日印刷株式會社

郷土の花 山崎伍長 (二)

飯野小學校生徒合作

中隊長「本當に氣の毒な氣がしたなア……」
 それだから支那人は皇軍の來るのを心から歓迎するのだ、軍規の正しい正義の強い勇ましい我軍をなア實際我が軍と支那人とはてんで比較にならないから山崎……」
 山崎「本當にさうでありませぬ。軍人は國を護り民を救ふ強く正しい勇士でなければならぬと思ひます」
 中隊長「ム、さうだ」
 吉田「吉田は在滿邦人鮮人の活躍に感じました。我々軍人の片腕となつて手助けしてくれたんであります……」
 中隊長「うウ……よく働いてくれたなア……手薄な吾等を勵し慰めてくれたのは在滿邦人と鮮人だつたなア……」
 佐々木「佐々木は新聞記者がかくれた勇士であることに氣付いたのであります。何時も第一線に立つて彈丸を侵して活躍して居るのであります」
 中隊長「ウム……實にかくれた勇者だ。深く感謝せねばならぬな……」
 山崎「山崎は常に銃後にあ

つて吾等を慰問し激勵してくれる國民の誠には泣かされて居ります。そして日本の軍人となつたことを感謝して居ります」
 中隊長「ウム……」
 齊藤「齊藤は内地から來た慰問の手紙がうれしくてならないんであります」
 中隊長「どんな事か？」
 齊藤「遠い滿洲のみなさま零下三十度といふ寒い曠野で御働きのなつて下さいます。その御心に對して只感激の外ございませぬ……何と御禮を申し上げようやら激勵してよいやら今の私には申し上げる」
 和洋服共にアイロンを掛けると着崩れを正す外に蟲害の豫防となりまた微菌を殺す効能もある。

永田「血痕生々しく「カンシヤアルノミ」と書いてあるんであります」
 上野「上野のには「マモレソコク」と書いてあります」
 中隊長「ウム……(やゝ感あつて後)
 中隊長「室井お前の慰問袋には……」
 室井「はい輝が入つて居たのであります」
 中隊長「何？ 輝？」
 明日の献立
 【朝】煮豆…富貴豆
 【晝】胡麻酢あへ…蓮根ごますあへ
 【晚】焼肴…いはだ 木の芽焼 だんごくわゐ
 室井「はい輝であります、文字入りの輝であります(ユーモア的に輝！に力を入れて少し滑稽的にいふ)」
 中隊長「何に文字入りとは風流ぢや、何と書いてあるか」
 室井「國の爲こは、は、は、心」とあります。
 橋本「橋本のには「大和魂心の底にしめよ」とありました」
 中隊長「ウム……仲々面白勝つてはしめなほせといふ所だなアハハハハハハ、愉快〜しつかりやれよ」

江戸前料理 会合

見習さん大至急募集
 十五歳より二十歳迄
 錦水
 電話四五四番

平新川町十九 産婦人科 木村病院


電話一六四番
 院長 木村寅次郎
 婦人科 醫師 内木宗八
 産科 醫師 内木宗八
 整形外科 醫師 内木宗八
 泌尿科 醫師 内木宗八

生徒募集

一、卒業年限 兩科通ジテ一ケ年
 一、入學資格 高等小學卒業又ハ同等ノ學力アル者へ無試験入學ヲ許ス
 一、申込期日 四月八日迄
 平町一丁目
 石城産婆學校
 校長 鷹崎千代
 電話三五七番

正札堂

イヤ！君！
 いゝ冬服を求めたね
 斷然三三三型だよ
 いやコレカネ！
 ……例の「ソレ」
 正札堂



四六三電通場車停目丁四平

吸入用酸素純度 99%

モノサシ 体温器
 マス 寒暖計
 ハカリ

關内藥局

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
 電話四〇番

旭硝子株式會社製品 板ガラス

赤菱印
 硝子 食器
 硝子 壺
 其他 各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
 仙臺市榮町(電話五九七番)
 木炭代用この上のない經濟の
 徳用豆炭
 壹袋正五貫目入金八十錢也
 御注文次第御届ケ申シマス
 南町(電話六六三番)
 磐崎屋酒店
 一丁目(電話五九六番)
 菅本武雄商店
 白銀町(電話二九九番)
 水野氷店
 六丁目
 矢吹石炭商店
 平町前(電話三七番)

阿部石炭商店

發賣元
 特約店募集致シマス

災害復舊工事入札

來月四日監督所で行ふ

平土木監督所では災害復舊工事の第二回入札を來月四日午前十一時より執行するが入札箇所は左の如くである

△山田村宿津地内鯨川改修△好間村北好間地内好間川△澤渡村下市萱地内好間川△磐崎村白鳥地内藤原川

永戸箕輪聯合の

青年總會優勝者

石城郡永戸箕輪組合村青年團總會は昨廿八日午前九時より合戸小學校に於いて開會したが當日辯論、劍道マラソン各優勝者左記の如くである

△辯論部(一等)合戸吉田

幸一(二等)箕輪遠藤庄一

郎(三等)渡戸草野勝男

(四等)箕輪立波見順吾

(五等)上永井藁谷正治

△劍道部(一等)藁谷久光

(二等)渡戸須藤義高(三

農民の血涙史(8)

鯨川堰を踏査し

往時を想起

古川傳一氏は縣會議員に當選するや直ちに縣に對して鯨川水力會社の水利權取消を強硬に迫つた。カラクリづくめのインチキ會社に相違ない。事は縣も認むる處であつたが、水利權獲得の手續きが合法であ

行ひ六日から授業を開始するが本年度各學年の組主任は左の如くである

多(二年)甲組下山田 乙組室原(三年)甲組中村 乙組新田(四年)甲組武川 乙組泉田(五年)大澤

矢田川改修中止の

報に驚いて縣廳へ

玉川村長其他押掛く

石城郡玉川村を貫流する藤原川の支流矢田川改修區救工事は八年度も繼續する豫定の處縣では藤原川の改修を行つて矢田川改修を見合せの模様なので駒木根村長丹助及び村議有志等は昨廿八日出縣井上縣議の案内で縣當局に陳情した

平町役場では堂ノ前地内傍溝工事の入札が何れも豫定額に達せぬので指名入札を行ひ佐々木健一郎氏に落札したが工費六百五十圓にて來る卅一日より着工すると

草野村電話開通

愈よ三十一日から

既報石城郡草野村郵便局では電話加入者十五名に達し平局で交換手養成中の處來る三十一日より愈よ通話を開始すると

縣議が愈よ同問題を縣會の議場に暴露し縣の生煮えな態度を難詰すると共に同問題が足手枷となつて難儀を見て居る農民を

平商の

組主任

縣の威力に依り此舉に出でたとしても行政訴訟等を提起された場合果して縣に勝味があるかどうかとも覺束ない是れが爲めに同問題に對する縣の態度は痛し搔ゆしでサツパリ煮え切ら

既報石城郡草野村郵便局では電話加入者十五名に達し平局で交換手養成中の處來る三十一日より愈よ通話を開始すると

躍つ起と

なつた古川

然と古川縣議の宿を訪れたのが警察部の高等刑事である。明日の

御質問の 要旨を承り度いと、古川氏も包まざる質問の要点を述べた、同問題に對し一人でも多くの認識者を持ち度い誠意からである。然るに翌日縣會の開會前に當り突然香坂知事から會見を申出て來た

堂の前溝

佐々木氏落札

平町役場では堂ノ前地内傍溝工事の入札が何れも豫定額に達せぬので指名入札を行ひ佐々木健一郎氏に落札したが工費六百五十圓にて來る卅一日より着工すると

大浦青訓勸誘 石城郡大浦村青年訓練所では來る卅一日午前九時より同村小學校に役員會を開き本年度訓練生入所勸誘に就いて打合を問くと

磐中上級進學

磐城

中學校卒業生馬目善將君は宇都宮高等農林學校へ遠藤正美君は福井高等工業學校へ各々合格したと

家政學院認可 平町舊城跡二十七磐城家政學院は豫てより縣へ認可申請中であつたが廿七日付を以つて認可の指令に接したと

平商合格

氏名を發表

平商業學校の本年度入學試験合格者は左の百十名である

(受付順)石井明 佐藤満 橋本勇 小澤幸三 佐藤博信 涌井三郎 佐

久間長七 鈴木吉一 松島精 内藤寛伯 大塚盛夫 今宮堅造 織内一郎 古市勝美 白土弘 小野重一 赤津大 緑川嘉久 橋本一己 松本和郎 船山泰一 立原弘治 大内義雄 片寄萬藏 九頭見武 小井戸堯 四倉敬介 大平喜市 難波一郎 齊藤道雄 鈴木福壽 國井武之 高田稷 鹽幸造 薄實 伊藤正勝 渡邊清 關清 志賀尚 平田良平 新妻孝允 御代喜平 高木敬 菅原文伯 坂本四郎 高橋雄次郎 澤三郎 吉田長一 佐藤真一郎 菅野一良 長瀬健一 福田龜雄 鈴木茂男 木村信男 間宮和雄 佐藤信一 齊藤保 鈴木仁一 吉田喜一 西山忠雄 金賀英太郎 坂本昇平 大平昌夫 鈴木淺雄 西山正之 金成久吉 須藤久嘉 木村勝美 瀧川淳 鈴木武夫 今田義政 阿部隆介 中野義廣 森下繁雄 矢吹義一 新妻喜男 小島繁雄 吉田武弘 北島雅博 鈴木省吾 會田長太郎 佐藤文男 鈴木金治 長瀬泰輔 岩崎久治郎 渡邊清吉 石山精一 石山榮一 早川忠男 齊藤直孝 石川一介 大山善司 佐藤和男 山野邊一郎 遠藤鶴壽 木田春衛 木田健夫 木船敏沖 皆川正己 宮本正明 神田豊 草野耕治 添田將 柴山蒼 廣木豊 四倉健 富田郁郎 井

麻布三聯隊に入營する紺屋町五十五番木大五郎輕重十四大隊に入營する大町一五福田正一の兩君も午前九時一分發列車にて出發すると

科人婦。科外
院醫坂井
町田町平
番九五五話電

美味! 芳醇!
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

の物刷印
て總は命用御
會社株式刷印日每警常
番〇三六話電
昇 中村忠男 吉田勝信

魔火踊り狂ふ

季節に直面して

お互ひに火の元を御用心

その注意の數々

火災季節に直面してこれが豫防について小田部平警察署長は左の如く語る

いよ／＼魔火のをどり狂ふ季節となつて参りました未だ寒さが身にしみ火に親しんでをりますが、この四月からは陽氣になつて参りますため火の取扱ひにムラが出来つゝ粗末になりがち

な處に火災を誘致するといふ大なる危険がひそんでゐます、従つてこれからの火災は勝手からといはず座敷寢室、工場、幹そう場等諸方面より出火いたします

子殺しの母親に 懲役七年を求刑

昨日第一回の公判

既報長男克己(七)及び長女千代の愛兒二名を昨年十二月内郷村白水川に投げ込み

を企てた平町六丁目百一番地日雇業相馬賢次郎内縁の妻佐藤ステ(三七)に對する殺人事件の公判は昨日午後一時より平支部に於て中島裁判長係り關口竹内兩判事陪席、小林檢察立會、安藤辯護士

は到底許す事が出来ないと懲役七年を求刑し辯護人は大森醫師の鑑定書に基づき精神に異常を來たして居るのだからと執行猶豫を力説午後三時半閉廷したが言渡しは来る四月四日午前九時である

まつ火根といはしましては炬燵、煙突、火鉢、七輪、かまど、消燵、煙草の吸殻提灯の置忘れ、火氣の取扱ひ、粗漏、小兒の弄火といつたやうな各種にわたつて

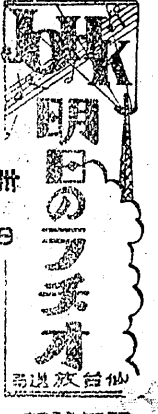
たとはば今まで炭火のハネたのが疊におちても物が幾分のしめりをもつてゐるのと寒冷のために一寸黒くあなを造つた位で自然に消えますがこれからは中々そうは行きませぬ僅な巻煙草の

列席の下に開廷型の如く裁判長の事實の訊問を終へ檢察の論告に移り本人の境遇には同情するが子供二人を殺した慘忍なる行爲

内郷に 潜伏を

宮城縣仙臺市土橋小路三〇三果實商加藤政雄の妻アイ(三〇)は本年一月より同家二

集金拐帶逃走 石城



明日の部 今晚も明日も北西の風晴れ曇り相半

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 童話劇「ヨーヨー姫」J.O.A.K. 唱歌隊
- 後六、二五 講演「西方アジャバレスチナに就て」石河光哉
- 後七、三〇 講演 町田梓
- 後八、〇〇 舞踊音楽歌 舞伎座より中継
- 後八、五〇 連続講演「水戸黄門道中記」第三席 田邊南龍
- 後九、三〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告

簡易保険 料金横領

豫審へ回送 既報石城郡内郷村大字御臺境綴邊便局集配人太田三郎(五三)が簡易保険の事務取扱

豚が幾分高値で

養豚業者買込みに熱中 郡小名濱町下明神町村上洋服店方雇人茨城縣磯原町生

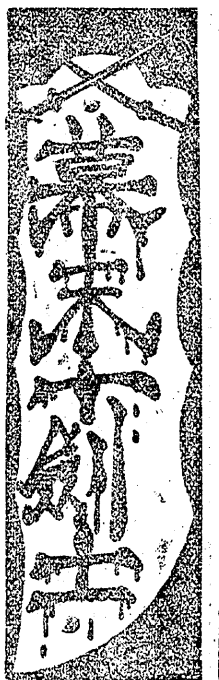
罰金を納めず 何所へか逃走

平橋事務局にては昨年十月平區裁判所に於て傷害罪に依

裁判所だより

双葉郡廣野村大字上北迫字上田郷三十六番地日雇業

- 明日の部 前九、一〇 料理献立 「鳥飯」松本良雄
- 前九、四〇 第十回全國選抜中等學校野球大會狀況 (甲子園より中継)
- 前一〇、三〇 家庭講座 「春のお化粧」メイ牛山
- 後〇、〇五 俚語
- 後二、〇〇 家庭大學講座 「哲學」(一〇)東京帝大講師 大島正徳
- 後六、〇〇 子供の時間 ハーモニカ合唱 仙臺リ
- リカルハーモニカ 指揮 伊勢秋麿
- 後六、二五 講演「傷害事故對策としての急救醫療施設に就て」醫學博士日影薫
- 後七、三〇 講演「聯盟脱退後の我經濟界」經濟學博士土方成美
- 後八、〇〇 浪花節
- 後八、四〇 詩吟 木村岳風
- 後八、五〇 連續講演「水戸黄門道中記第四席」田邊南龍
- 石城郡好間村大字北好間字三反田二十二番地無職前科五犯根本梅二(三三)が昭和七年七月水戸刑務所を出所後間もなく本縣、宮城、山形各縣下に於て女給及び女工の周旋を口實に詐欺窃盜を働いた事件は本日午前九時より平區裁判所に於て中島判事係り上田檢察立會の下に公判開廷され事實訊問の上拘留されたが第二回公判は来る四月五日である
- 平職業所報告 回人を求める方
 - △雜夫 二十五才 尋卒 月十圓位(小名濱町某)
 - △農夫 三十才前後 委細 面談(高久村某)
 - △理髮見習 十六才 高卒 仕着小遣(平町某)
 - △回職をる方求む
 - △小使 三十七才 高卒 給料面談(小名濱町某)
 - △洗濯業 十五才 高卒 給料面談(内郷村某)
 - △菓子製造工 十六才 高卒 給料面談(飯野村某)
 - △發動機械作工 十五才 高卒 給料面談(平窪村某)



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
佐々木見山

第三百二席
馬を取戻す

山本克己のたふれたその背に跨がりし菊地大六、スラリ脇差を引抜いてビタリと咽喉へ當
大「どうだ山本、斯くても貴様は乗馬を引渡すことはならぬと申すか」
イヤ山本が驚いた、渡邊松崎とは異なりこの菊地は斯道の達人、俺も剣術に就いては自信もあるが此奴の爲には初心の者のやうに扱はれるとびつくりしましたところへ出て来たは小きんに小兼、おかめの金太

小きん「山本さん、どうしたもんだね、意氣地がないねえ、モン有馬様の御家来どうぞ山本さんを助けて下さい」
大「助けて遣はずが馬は戻すか、コレ山本、乗馬を俺に引渡すか」
山「お引渡し申すどうぞ一命はお助け下さい」
大「さりとて未熟な奴だ、起ろコレ」
腕を撫上げ抜いてゐた脇差を疊へズバリと刺し用意して来た麻繩にて山本をくっし上げた、これを見てゐたおかめの金太は驚いて逃げやうとするを菊地



を戻さぬと斬るぞ」
小きんも小兼もかうなつては拒むことは出来ない
小きん「今ひいて参ります大「俺も一緒にに参る、山本當分これにて窮命致し居れ」
柱へくっし序に金太も縛

大「待て、逃げるこの小柄が飛んでまゐるぞ神妙にいたせ」
金「どうぞ御勘辨下さいまし、一體これはお前さんが腹を立つは尤もだ、山本さんがよくねえ」
大「馬を渡せ、コレ女、馬

り上げる、取次ぎに出た多助と云ふ若い者もくっし上げて
大「もう男は居らぬか、さア女に案内致せ茲で二人が大六を腕に挟んで来た、三頭馬が居りますそれを引き出した小きんに小兼
小きん「それではお返し申します」
大「この雨の降る中を引いて行くことはなるまい、貴様たちは此の馬に乗つて邸まで行け、俺は今一頭の馬に乗つて参る」
と云はれて二人は否とも云はれず合羽を着て笠を冠

り馬に乗る、菊地は物置にあつた蓑を纏ひ竹の子笠を冠り今一頭の馬に乗つて本所の一ツ目を後にして安宅の通りから六間堀にかゝり新大橋を渡つて新川から八丁堀木挽町それから新橋へかゝつて、往來の者は

之を見て
○「美しい女が馬に乗つて居るぞ大名のお姫様か、それ奥様か」
△「見ろ、後に蓑を着た侍がついて居る」
○「女が馬に乗つてこの大通を行くはめづらしいぜ」
△「オイ、あの女は同院の地内に出てゐる曲馬の太夫だぜ」
○「ハテナ、あゝわかつた太夫元と喧嘩をして馬を凌つて逃げたかな、顔はきれいだが質の悪い奴だよ、オイ後から行く侍はなんだ」
△「あれは口上云ひだよ女はきれいだがあの口上云ひは形の悪い者だ」
なぞといふ、菊地大六は往來の者をにらみつけ二人を急立て赤羽根の有馬侯の邸に來た、門前にて馬を下

大「その馬を引いて邸に入れ」
と云はれて二人は馬の口を取つて門を入り大六の後について厩に來て馬丁に渡し
小きん「もう旦那様わたくし共は歸つても宜しうございますか」
大「待て待て、貴様たちにはまだ用事がある、これへ参れ」
と自分の住居の道場へ伴れて來て二人を柱へ縛りつけ、大六の乗つて來た先方の馬はこれを厩に入れ松崎に渡邊を呼んで馬を取戻した事を告げた、二人は大層喜びました、時に大六が大「明日にもあの女の亭主

山本の許へ行き二人の女と馬一頭は確に當方に預かり置く、入用ならば戻し遣はすが金子を五百兩持つて出ると云へ」
松「これは面白い今度は此方が強くなりましたナ」
と此事を松崎より山本に知らせた、イヤ克己の驚いたことそれよりも一層驚いたは曲馬の太夫元人氣のある二人がゐなければ客が呼べない、そこで有馬邸の菊地の許に出て來ましてひたすら詫たがどうしても取戻すことが出来ず戻りました、松崎に渡邊はこれによつて恥辱を雪ぎ返報をしたと躍り上つて喜んだ、菊地は松崎に恩を着せて置いて自分の望みを達するに陰謀を懷き居る。

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

御侍兼の世界的流行玩具の王様
◎安價 一個五錢 十錢 二十錢
當工場製品にはヨーヨーの遊び方説明書進呈致します
募集廣告 一、挽物製作徒弟 五名
右ハ本年尋常又ハ高等卒業ノ身身體建固ニシテ意志強固ナル者
右希望者ハ自筆履歴書ニ學業成績表ヲ添へ至急御申込ヲ乞フ
各種挽物 丸盆類 佐藤挽物製作所
木製教育玩具製作 平町十五丁目三十番地
家具附屬品一式 電話(ヤマ)又ハ(カノ)
特約店 森下玩具店 金太郎玩具店
イワキ屋便利店 立花屋商店

花柳科専門
木村外科醫院
入院自炊の便あり
平町五丁目橋際 電話三〇九番
御入學、御進級、御卒業ノ
プレゼントニハ是非御時計ヲ
驛前通りノ星野時計店へ願マス
三月廿八日ヨリ四月廿六日迄廿日間
記念トシテ正札ノ一割引特賣
御修繕ハ大勉強 粗景品進呈

新通學生用品 豐富陳列
ランドセル 總皮 七十五錢
學修院型 一圓二十錢
シノボ生學用品 防水防雨
一粒選りの格安品取揃
ヤルツ 〇四一電